

# 後援会だより

## 「キャリア形成論」を担当して

平成20年度主担当 柴原 哲太郎

Career（英語の発音は“キャリア”に近い）は、人間が生きて行く際の履歴・職歴を意味しています。その意味で、殆ど全ての人がある生涯で各自のより良い仕事の場を模索しつつ、キャリアを形成していると言えます。

福島大学では「自分自身を見つめ、卒業後の進路やその後の人生について考え、学生にしっかりとした職業観を持って欲しい」と考え、大学再編の折に全国の大学に先駆けてキャリア教育科目群を設けました。「キャリア形成論」は、その最初の必修科目となっています。

「キャリア形成論」の担当教員は2名で、講師には学類長をはじめ3つの専攻の先生方に学類・専攻で学生が学習する内容やその後のキャリア展望を紹介していただき、また、様々な分野の専門家を学外講師として招き体験を語っていただいています。このような授業の中から、「何故自分はこの学問を選び、この生き方を志すのか」ということを学生自身が考えるようにと担当者は望んでいるわけです。

毎回学生が書くコメントには、学問や人生の先輩から直接に話を聞くことで、「人生に対する見方、考え方が大きく変わった」、「自分の将来に対する視野が大きく広がった」、「漠然と公務員になりたいと考えていたが、この講義を通じて、公務員になる理由付けが自分の中で明確になった」など、大変ポジティブな意見が多く書かれています。

私自身が話す折には、大学卒業以来20年間を北米、主にカナダで過ごしましたので、人生・教育・大学・就職・起業などについて、北米の親の教育に対する考え方、学生の大学で学ぶ姿勢、仕事をするこの意義づけなどを日本人と対比しながら説明し、将来外国の技術者や研究者とも相互理解出来る考え方を持てるように、国際的な常識も紹介したりしています。そして、「洋の東西を問わず、『高潔な志と清らかな夢』が一番大事です。“人々のためになる”夢を持ちなさい。そうすれば周りの人たちが必ず応援してくれます。」と最後に話しています。



## 一年生紹介

### Aグループ

グループアドバイザー 岡 沼 信 一

Aグループは女性4名を含む22名で、内10名が福島出身、残りは北関東から青森にかけてのバラエティーに富んだ面々です。積極的な学生も多く、代表や各種委員を選ぶときには比較的すっきりと決まりました。入学から数ヶ月たち、学業や部活動に力を入れて頑張っている学生も多いようです。



### Bグループ

グループアドバイザー 石 岡 賢

各学生は、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島、栃木、茨城、群馬、千葉、神奈川、といった東北・関東から幅広く集まっており、Bグループはこれらの多様なカルチャーによるユニークな雰囲気を持っています。多様な考え方に接して自分の価値観を確立していくのも大学生活では重要なことです。これからもグループアドバイザーとして、有益な学生生活を送れるようにサポート致します。



### Cグループ

グループアドバイザー 市 井 和 仁

北は北海道、南はベトナムまで、様々な出身の22名の集まりです。

グループ代表を中心に、よくまとまりつつあるようです。

入学時のフレッシュな気持ちをいつまでも忘れずに、学業や課外活動等、様々な場面での活躍を期待しています。



## Dグループ

グループアドバイザー 神長 裕明

Dグループは、福島県内8名をはじめ、栃木3名、宮城、埼玉、新潟から2名、青森、岩手、茨城、横浜から1名、そして中国からの留学生1名の計22名（女子4名男子18名）、アドバイザを含めてちょっとシャイな（？）人間の集まりです。少しずつ個性を発揮しながら、まとまりと活力のあるグループへと成長していきけるとよいと思っています。



## Eグループ

グループアドバイザー 金澤 等

グループのメンバーは22名（女子4名）からなります。まだ、今後の方向性が決定していないこともあり、当初から何となくのんびりとした雰囲気がありました。しかし、前期の講義の教養演習で、課題「タンパク質について調べる」を出したところ、かなりの割合の学生が、きちんと勉強してきました。今後、徐々にキリッとした顔に変わっていきます。

## Fグループ

グループアドバイザー 高安 徹

Fグループは県内出身者5名に加えて、北海道から愛知、それに中国からとバラエティー富んだ面々です。人見知りする学生もいれば、積極的な学生もおり、今後どのようにして友人関係を築き、成長していくのか楽しみです。





## Gグループ

グループアドバイザー 篠田 伸 夫

Gグループは、福島出身者が多いですが、北は青森から西は広島まで、南はベトナムからと。22名の多様な人材が集まって来ています。大学に入ってまだ1セメスターで、勉強も仲間作りもこれからです。仲良くやっていきましょう。



## Hグループ

グループアドバイザー 藤本 典嗣

Hグループは、東北、北関東出身の学生が大半ですが、東京、三重などの出身者もいます。最初は全員が緊張した顔でグループに出席していたのが、回数を経るごとに、次第に大学生活に慣れてきています。出席も概ね良好で真面目な学生が多いので、学業面でも部活面でも期待がもてる雰囲気となっています。



## Iグループ

グループアドバイザー 長谷部 亨

私たちIグループは、静岡県出身が2名、隣県の新潟県出身が1名、宮城県が3名、山形県が2名、栃木県が4名、群馬県が1名、さらに北方の秋田県、岩手県出身がそれぞれ1名ずつ、地元福島県出身は7名の計22名（それに付録のアドバイザー1名）のグループです。アイグループなので愛を中心に楽しく大学生活をおくっています。入学後始めての前期末試験も終わり、ホッとしている今日この頃です。



## 学業優秀者表彰

2年 高橋 純一

はじめに、今回このような賞をいただけたことを大変嬉しく思います。これも自分一人の力だけでなく、友人、先生方の協力があるのだと思いますので、とても感謝しています。

大学に入学して、最初は一人暮らしや授業などに戸惑い、新たな生活に慣れることで精一杯でした。大学の授業は今までとは異なり、自分で考えることが主となるので苦労しました。また、授業の中で難しい言葉が頻繁に出てくるので、しっかり予習、復習しないとついていけないと感じました。試験では、分からないところをそのままにしておかないことが大切です。そのために、友人と一緒に話し合ったり、先生に質問したりして理解を深めることが欠かせないと思います。

今後は、授業内容もさらに難しく、より内容が濃いものとなってきます。しかし、この賞を頂けた事を力に、勉学に励んでいきたいと思ひます。また、残りの大学生活が充実したものとなるように過ごしていきたいと思ひます。

3年 山田 道子

始めに、今回このような賞をいただくことが出来たのは、自分を支えてくれた友人達や、丁寧に指導してくれた先生方のおかげであると思ひています。ありがとうございます。

受賞を受けた2年次は大変忙しい年で、勉強しなければならなかった教職科目や専門科目がたくさんありました。中でも一番大変だったのはドイツへの短期留学でした。出発の時期が前期試験の日程に重なっていて、あたふたする日々でした。しかし、海外で1か月過ごすことで、自分の視野が広がって、色々な事柄を様々な視点から考える思考力が身に付きました。大学時代には、大学時代でしか出来ない事がたくさんあります。勉強やサークルを頑張ることも大切だと思ひますが、色々なことにチャレンジし自分を磨くことが出来るのも、今しかないと思ひています。

これから研究室配属が決まり、私は化学分野に進もうと考へていますが、これからもチャレンジ精神を忘れずに頑張っていきたいと思ひています。



## — 学業優秀者賞を受賞して —

成績優秀者賞受賞を通して

～身についた事と感謝の気持ち～

4年 畠山 香里

まずは、昨年に引き続き、このような素晴らしい賞を頂く事が出来、大変嬉しく思っています。

約3年前入学した頃の頃、右も左も分からず、期待と不安でいっぱいでした。『文理融合の科目が学べる事』そこに魅力を感じ、「幅広い知識を身につけたい」という思いのもとスタートを切ったのを覚えています。

私は、特別理系の分野が得意という訳でも、「勉強が出来る」という訳でもないで、「自分で決めた道、出来る限りの努力をしよう」とそう思い、何事にも取り組んできました。そんな中、一番身に付いたと感じる事は、「探究心(自分で学ぶ意欲)」です。

大学の勉強は、自分で選び、決め、学んでいくものです。自分の興味のある分野も、またそうでない分野も、自分の知らなかった事を学べる喜びと、『多くを吸収したい』という強い気持ち、そしてその気持ちを成長させられたからこそ、今があると思ひています。その結果として、学問を含め多くの事を身につけることが出来ました。自分の知識となり、また努力した結果がこのように形で評価され、大変嬉しく感じています。

これも、いつもそばで支えてくれた友達、そして何より忙しい中、時間を割いて教えて下さった先生方のおかげです。全く分からず基礎がなっていない私に、熱心にご指導して下さったことに深く感謝申し上げます。

最後に、今こうやって“学ぶ環境”を与えてくれ、挫けそうな時も支えてくれた両親に、心から『ありがとう』と言いたいです。これが少しでも恩返しになればと思ひます。

### 平成19年度学業優秀者

1年  
高橋 純一・芳賀 友洋・八代 尚子・和泉 尚志  
大橋 亮太・中野渡 愛・村上 俊政・北郷 孟  
レータン・ティン・ブー・築場真衣子・三浦 深志  
秋元 慎也・富田恵・八木真梨恵

2年  
山田 道子・遠藤 麻也・播磨 耕祐・荒井 大功  
新田 真菜・櫻井 貴紀・海上 未央・吉田 創  
針生健太郎・小賀坂由姫・齊藤 貴博・佐藤 雄太  
荒井 浩平

3年  
木村 直・渡部 康実・鈴木 孝・福田亜由美  
木村慶一郎・神永 馨子・関谷 雄史・境 あかね  
穴戸 仁美・中山 祐貴・加藤俊一郎・安沢 孝太  
富塚みさき・美野田友樹・畠山 香里・柳沼 圭吾

### 平成19年度学類長賞受賞者

「ecoっ子」・「Laugh Maker」



## ecoっ子

代表 鈴木 佐知子

オオハンゴンソウという植物をご存じでしょうか？北米原産のキク科の多年生で、高さが0.5～3mまでに成長し、黄



色い大きな花を付ける植物です。実はこの植物、環境省の特定外来生物に分類されている曲者です。明治中期に観賞用に導入され、現在は全国で大群落がみられます。福島県でも分布が拡大しており、道路脇などを見てみるとオオハンゴンソウだらけという地帯が福島県には沢山あります。

環境省の特定外来生物に指定されながら、オオハンゴンソウに対して一般の方の認識が薄いことが現状です。そこで、自分たちで何かアプローチをしたいと思い立ち「ecoっ子」というオオハンゴンソウの駆除と外来生物の利活用の研究を行う団体を2006年の12月に設立しました。2007年には湖美来基金水環境保全活動支援事業助成金交付が決定し、援助を頂くことになりました。

すぐにでも駆除を行いたいところでしたが、特定外来生物に指定されている生物をむやみに持ち出すことは、駆除という名目でも外来生物法に触れてしまいます。また、浅い知識で駆除することで、逆に生態系を壊してしまう可能性もあります。そこで、様々に検討した結果、根を残した刈り取り方法で駆除を行うことに決定しました。

2007年の9月にいよいよオオハンゴンソウの駆除を行いました。場所は福島県の裏磐梯。この時期のオオハンゴンソウはほぼ私達の背丈以上の高さばかりで、刈り取りにも



一苦労です。9月と言ってもまだ暑い日差しの中、汗と泥だらけになりながら2日に渡り駆除を行いました。その結果、トラック2台分ものオオハンゴンソウを駆除することができました。苦労したにも関わらず、駆除した量は裏磐梯地域に

生息するオオハンゴンソウ全体の量に比べたら、ほんのわずかです。壊れた生態系の回復は、長期にわたり、地道に行わなくては行けないと身をもって痛感しました。

次に行うことが利活用法の見当です。良い利活用法が見つければ、駆除も積極的に行われるのではないかと思います。クッキーと紙を試作してみました。クッキーは、在来のハンゴンソウが食べられているという噂を聞き、試作しました。しかし、よくよく調べてみると実はオオハンゴンソウの近縁種に下痢を催す植物が存在することが分かりました。幸いメンバーに被害はありませんでした。

しかしよく調べずに行動してしまったことに反省し、気をとりなおし紙作りに集中することにしました。紙にするためにオオハンゴンソウの茎の部分を煮ましたが、3mもある植物の茎ですので、なかなか煮込むことができません。煮込むことなんと5時間近く。ようやくできた紙作りの試作品1号は段ボールほどの厚さになってしまい、紙と呼べる代物になりませんでした。環境問題を考えているのだから、煮るときのCO<sub>2</sub>

排出量も考慮しなくてはと思い、ミキサーにかける時間を長くしたり、糊の配合をかえたりと改良を重ね、だんだんと紙らしくなってきました。

駆除と利活用を通して学んだことを多くの人に知ってもらいたいと思い、福島大学の文化祭や日本生態学会東北地区会大会でポスター発表を行いました。オオハンゴンソウの存在を知ってもらうために、表現方法などを注意し一般の方たちにも分かりやすく伝えようと努力しました。

ecoっ子の活動は全てが手探りで、まだまだ知識も足りない部分もありました。しかし周りの方々にアドバイスを頂きながら1年間なんとか活動を続けることができました。自分たちの力で言うことはそれだけ責任も大きくなります。けれども失敗を恐れずに、失敗から学んでいこうと考えています。今年にはさらにウチダザリガニという外来生物の駆除を行う活動中です。まだまだ自分たちに出来ることは沢山あると考え、これからも限界を決めずに多くのことにチャレンジをしていきたいと思っています。



## Laugh Maker 代表 沼木俊亮

今日の経済成長に伴う環境の悪化は過去の公害問題ほどではないものの無視できないものです。全国規模に広がっている環境サークルは学生が中心となり身近な環境問題から地球温暖化などのグローバルな問題に取り組み、大学ごとに異なった目的の元に活動しています。その中で、2007年7月に設立した環境サークル Laugh Maker も「福大生のecoに対する意識の向上」という目的を掲げ、自然環境、生活環境を取り上げ、メンバーは理工や行政政策、人間発達といった幅広い学類の方が活動に参加しています。目的の対象は基本的に福大生となっていることから活動場所は福島大学やその周辺となっています。



最初の活動として大学の生活環境が良くないことが挙げられていたので美化活動としてゴミ拾いを行いました。経路は決まっております、正門から

ガソリンスタンドを横切り金谷川駅方面となっています。収集されたゴミは分別されます。今年からゴミ拾いは月に一回実施し分類ごとに量り、その推移を今後のゴミ対策に活用しようと考えています。

続いて掲示板整理を実施しました。掲示板を整理し掲示をし易くし、視覚的美化を目指しています。現在も毎月一回この活動は続けられており既に行われたイベントに関するポスター関係をはがし、またサークル紹介のポスターやまだ行われたいイベントのポスターに関しては見やすくかつまとめて貼っています。

そして2007年の活動を締めくくるイベントとして、12月21日に500本の手作りのロウソクを使いキャンドルナイトを大学の協力のもと福島大学S棟前で実施しました。目的はロウソクの光によって、落ち着いたほのかな光を体感してみよう、電気の大切さをみんなで考えてみよう、カーボンニュートラル（カーボンフリー）という理論を実際に活用しようという三本柱で行われました。一般的にキャンドルナイトはある決められた時間に電気を消してロウソクを灯し、



落ち着いた雰囲気の中で電気の大切さを感じ、また二酸化炭素排出を抑えるために行われるイベントです。

私たちのキャンドルナイトではロウソクを福島大学生協食堂から出る植物性の廃油から作ることで、その中にカーボンニュートラル（植物は燃やすと二酸化炭素を排出するが、成長過程では光合成により大気中の二酸化炭素を吸収し、二酸化炭素の収支がプラスマイナスゼロになる）という理論を取り入れました。手作りで作ったこともあり厳密には二酸化炭素の収支がゼロになることはありませんが、キャンドルナイトに来て頂いた方がこの理論を応用し生活の中で使っていただけたらという思いもありピラを配り開催の趣旨をお伝えしました。

また、Laugh Maker の活動のゴミ拾いを行って行く中で物の大切さという思いが芽生え始め、このキャンドルナイトで使う「もの」についても出来るだけリユースを大切にしました。それが上記で述べたロウソク、そしてロウソクの容器を大学寮から大量に出される空き缶から作りました。また、ピラを配布したのでやむを得ず手放す方のためにピラ回収ボックスを設置しました。回収したピラは今後活用する予定です。



また、キャンドルナイトに長い時間多くの方を滞在させるために大学内の音楽系サークルさんの協力のもとキャンドルナイトコンサートを開きました。ロウソクが灯す神秘的な空間にぴったりの音楽が奏でられ多くの方の足を止めることができましたと思います。

このキャンドルナイトはテレビでも生中継され、福島大学だけでなく県内の多くの方に伝えられる機会を得られました。普段何気ないものでも意外な活用性があることや電気の大切さなどの私たちの思いが伝われば成功と言えます。

現在、大学内に畑を耕し身近に自然を感じる場所を設け、学食の残飯をコンポスト化し、トマトやジャガイモなどを植え収穫祭を行いました。また今後の活動としてフリーマーケットや福島大学内の放置自転車を撤去、修理し学祭で販売する予定です。また、夏休みに植生豊かな裏磐梯の見学や福島市のリサイクルが果たして行われているのか等の疑問を抱え自分たちの目で現状を見るために市内のリサイクルセンターの見学を実施します。

これからも環境を大事にしたいという気持ちを忘れずに活動を続けていきたいと強く願っています。



## CAMPUS LIFE



学生交流会 5月28日



研究室の仲間とお花見ランチ



学生交流会



学業優秀者表彰 5月26日



課題探求G



学類長賞プレゼンテーション



学類長賞表彰 5月28日



## 学生生活支援だより

共生システム理工学類学生生活委員会

随時紙面をお借りして、後援会の皆様に共生システム理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしています。

### 〔学類学生の動向〕

5月26日には、理工学類の2種類の学生表彰制度のうち、成績優秀者を対象とした「学業優秀者」の表彰を執り行いました。また、5月28日には、学類の発展に貢献した学生や団体を表彰する「学類長賞」の表彰式が、学生交流会の中で行われました。そして先輩後輩間や先生方との有意義な交流の会となりました。

学内で数件の盗難事件が発生しています。理工学類の学生も被害にあっております。学生には貴重品の管理に注意するよう周知をしています。

### 〔大学へのご相談〕

前期も終わり、学生生活に関わる様々な問題や心配事が生じてくることもあるかと思います。これらの窓口として、「学生支援グループ」や「学生総合相談室」で相談を受け付けています。本人からの直接相談はもちろん、父兄の方などからの相談も可能です。学生生活上の問題（対人関係、生活上の問題など）、健康上の問題、メンタルヘルスの問題、寮生活上の問題、教員とのトラブル（アカデミックハラスメント）で相談したい、セクシャルハラスメント、アルコールハラスメント、ストーカー被害等にあっているようだ、学費納入が困難になった、カルト宗教や不審な団体から勧誘を受けているようだ、悪徳商法の被害にあっているようだ、等々の場合には御相談下さい。

学生支援グループ（電話 024-548-8054）受付時間：平日 9:00-16:30（時間外でも可能な限り対応します。）

学生総合相談室（電話 024-548-5156, FAX 024-548-5157, E-mail g039@ipc.fukushima-u.ac.jp）受付時間：カウンセラー担当 第1週を除く水曜日（13:00-17:00）・毎週金曜日（16:00-21:00）職員担当 月・火・木曜日とカウンセラー担当以外の水曜日（13:30-17:00）。開室日以外でも相談は、学生支援グループで受け付けます。



## 平成19年度共生システム理工学類後援会会計決算報告

収入内訳

(単位円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	4,769,130	4,769,130	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4百円×6年)等を含む
会費	3,620,000	3,800,000	180,000	H19年度 20,000×189新入生+10,000×2編入生
雑収入	0	8,349	8,349	利息
収入合計	8,389,130	8,577,479		

支出内訳

(単位円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
総会費	10,000	30,397	△20,397	横断幕、資料印刷費等
役員会費	100,000	104,686	△4,686	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	400,000	382,000	18,000	事務局職員手当て 1,000/時 30時間/月 諸会費納入受付アルバイト
職員旅費	10,000	10,000	0	
事務費	100,000	88,193	11,807	通信費、消耗品費、事務局備品、HP管理等
小計	620,000	615,276	4,724	
学生活動助成費	900,000	462,174	437,826	学生の研究・課外活動支援費
就職指導対策費	500,000	493,599	6,401	企業講演会、企業交流会、企業訪問、就職先開拓
後援会報費	200,000	264,345	64,345	会報年2回発行
福利厚生費	570,000	422,000	148,000	アドバイザーグループ親睦会等助成、学類学生交流会
教育研究助成費	2,000,000	385,854	1,614,146	実施指導、実習指導助成、海外演習補助、資格試験受験料補助
小計	4,170,000	2,027,972	2,146,752	
学籍移動に伴う返金	0	73,760	△73,760	退学者3名、転学類者6名
支出合計	4,790,000	2,717,008		

収支決算-支出合計=5,860,471円は平成20年度へ繰越

平成20年3月31日報告

上記のとおり報告いたします。

共生システム理工学類後援会 会計担当

田井昌子



平成19年4月1日から平成20年3月31日までの会計について、会則に基づき監査の結果、その処理が正確であり適切であることを報告します。

共生システム理工学類後援会 監査役

浅田菜治



## 平成20年度共生システム理工学類後援会会計予算

収入内訳

(単位円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	5,860,471	4,769,130	1,091,341	
会費	3,600,000	3,620,000	-20,000	5,000×180×4
雑収入	0	0	0	預金利息等
収入合計	9,460,471	8,389,130	1,071,341	

支出内訳

(単位円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
総会費	20,000	10,000	10,000	資料印刷費等
役員会費	150,000	100,000	50,000	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	500,000	400,000	100,000	事務局職員手当て 1,000/時 40時間/月 謝金含む
職員旅費	10,000	10,000	0	
事務費	100,000	100,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	620,000	160,000	
学生活動助成費	600,000	900,000	△300,000	学生の課外活動支援費、表彰制度 5,000/人×40、学生交流会費(20万)
就職指導対策費	200,000	500,000	△300,000	企業講演会、企業交流会、就職先開拓
後援会報費	300,000	200,000	100,000	会報年2回発行(送料含)
福利厚生費	1,100,000	570,000	530,000	アドバイザーグループ助成(1,000×180×4)、卒業祝賀会(2,000×180)
教育研究助成費	620,000	2,000,000	△1,380,000	実施指導、実習指導助成、資格試験受験助成(3,000×100)、海外演習助成(30万)、学会参加費、研究交流会費
小計	2,820,000	4,170,000	△1,350,000	
支出合計	3,600,000	4,790,000	△1,190,000	
繰越金	5,860,471	3,599,130	2,261,341	学生活動助成(36万円×6年) 福利厚生費(18万円×6年) 通信費(3万4百円×6年)等を含む
合計	9,460,471	8,389,130	1,071,341	

## 平成20年度 福島大学理工学群共生システム理工学類後援会役員名簿

【役員】

会長	富田康男	H17~
副会長	清野好江	H17~
副会長	瀬川秀和	H18~
監事	浅田英治	H17~
理事	遠藤新一	H18~
理事	高橋薫	H19~
理事	富田道夫	H19~

理事	菅野毅	H19~
理事	小笠原仁海	H20~
理事	斉藤修	H20~
理事	高橋健一	H20~

【事務局】

共生システム理工学類長：入戸野 修  
 総務担当評議員：柴原 哲太郎  
 事務局員：田井昌子

◆◆◆◆◆ **工場・研究所見学** ◆◆◆◆◆

原町火力概要説明



原町火カタービンフロア

2008年8月5日

**東北電力原町火力発電所および  
東京電力福島第一原子力発電所**

2008年8月7日

～訪問先 その1～

**(株)江東微生物研究所東北中央研究所** いわき市

臨床検査、環境分析の最前線を見学した。



グリシンなどの製造工程を見学しているところ。



製造工程などの説明を受ける。5S活動など企業の徹底したものの作りに対する姿勢を学ぶ。

～訪問先 その2～

**有機合成薬品工業(株)** いわき市**親のための就職セミナー開催について**

主催 福島大学就職支援委員会  
 後援 福島大学人間発達文化学類後援会 福島大学行政政策学類後援会  
 福島大学経済経営学類後援会 福島大学共生システム理工学類後援会

**親として若者の未来にどう関わるか！**

本学就職支援委員会では、最近のフリーターやニート問題が社会問題となっている状況を踏まえ、保護者とも連携しながら就職支援をしていく必要性を痛感しております。働くことに対する意欲を高めるには、保護者としてどうかかわるべきなのか理解を深めるために、在学生の保護者を対象に下記のとおりの「親のための就職セミナー」の開催を企画いたしました。

参加ご希望の方は参加申込書にご記入の上、FAXまたは郵送で10月17日(金)までお送りくださいますようお願いいたします。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せてご覧くださるようご案内いたします。

記

1. 開催日時：平成20年11月1日(土) 13時～14時30分 [参加無料]
2. 開催場所：福島大学共通講義棟 L-1教室(福島市金谷川1番地)
3. 参加対象：福島大学の在学生の保護者(先着200名)
4. 開催内容：①挨拶 福島大学副学長(学務) 清水 修二  
 ②福島大学の就職状況について  
 ③講演 石原 誠一郎 氏(株式会社トゥルーキャリア代表取締役)  
 ※参加者全員が参加できる心理ゲームやペアワークを体験できます！  
 ④質疑応答

[参考]

## ● 石原 誠一郎氏のプロフィール

1978年早稲田大学卒 日本キャリア開発協会認定CDA 日本キャリアデザイン学会会員  
 大学卒業後大手金融機関で政府系融資を担当。その後大手就職情報会社に転職し、金融、メーカーなど大企業の採用広報担当を歴任後、就職ガイドブックの編集長を担当。その後人材紹介事業を立ち上げ、転職希望者に対して心理学のカウンセリングマインドを基礎にしたキャリアカウンセリングを実践。2006年1月自分の理想とする「天職」サポートの実践のため独立。現在工学院大学、目白大学においてキャリアデザイン講座を担当中。

[送付先] 福島大学学生支援部門就職支援グループ 大和田雄司  
 〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355

**福大祭へお越し下さい！**

- 第44回福大祭一般公開 場所：福島大学  
平成20年11月1日(土)・2日(日)
- 出張福大祭「ももりんダツシュ」 場所：福島駅前  
平成20年11月3日(月)

- ご意見・ご要望は下記共生システム理工学類後援会まで
- 事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 TEL&FAX 024-548-8176
- 福島大学理工学群共生システム理工学類内
- 学類のHPでさまざまな教育・研究をご覧ください。
- <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>